

# 加賀毛針

## 歴史

加賀毛針の起源は明らかではないが、加賀藩では武士の特権として鮎釣りが認められていた。このため、武士が個々に工夫して鮎毛針を考案し、また下級武士の内職としても作られていた。

明治7、8年(1874、1875)ごろ、釣りが一般に開放され、専門の釣り針屋が営業を始めるようになった。明治23年(1890)には、内国勸業



博覧会に出品し、その美しさから高い評価を受け、東京を中心に全国に販路を拡大していった。戦時中、ぜいたく品として需要が落ち込んだが、近年の釣り人口の増加で加賀毛針は根強い人気を誇っている。

## 特色

疑似餌[ぎじえ]に見せる部分の原材料は、主に野鳥の羽毛を用いる。そして、ハリスは本テグスを用い、ハリスと針の接合部には光明丹[こうみょうたん]と漆、金箔を使って接着し、毛巻きには絹糸を使用する。このことが、水中でも長時間の使用に耐える実用性に優れた針を作り出す秘訣である。

加賀毛針は大切に扱えば、100匹以上の鮎が上がると言われており、耐久性と同時に、針巻き師と釣り人が針と釣果について絶えず情報交換をし、改良を重ねてきた結果と言える。



# 加賀毛針

## 歴史與特色

加賀毛針の起源雖不明確、但是在加賀藩、武士有釣鮎魚の特権。因此、武士們各自都下功夫鑽研釣鮎魚的毛針，到明治7,8年(1874, 1875)左右，也開放一般人士釣魚權利，專業的釣魚用具店開始興起。在明治23年(1890)，加賀毛針在內國勸業博覽會上展出，因其美麗而受到了很高的評價。近年來隨著釣魚人口的增加，加賀毛針也越來越很搶手。

模擬魚餌部分的原材料主要使用的是野鳥的羽毛，而鉤線為本天蠶絲，鉤線和針的接合部是用光明丹、漆、和金箔連接起來，毛卷則用絹絲製造而成。由此秘訣製成的優秀毛針即使長時間泡在水中仍然經久耐用。

## 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	毛針、アクセサリー(毛針、飾品)
主な生産者(主要生産者)	加賀毛針の会(加賀毛針會) 〒920-0854 金沢市安江町11-35 (金澤市安江町11-35) TEL (076) 231-6371